

Institute for Psychological Research, Meiji Gakuin Univ.

2007 秋

心理学部附属研究所 通信

創刊号

明治学院大学

ヒューマンサポート実践研究に向けて

待望の「心理学部附属研究所 通信」が発行の運びとなりました。

2001年10月に発足した明治学院大学心理臨床センターを「相談・研究部門」とし、新たに「調査・研究部門」を加えて、学部の研究所としてスタートしたのは2004年でした。これにより、心理学部附属研究所は、すべての教員が研究員として参加する、他学部の附属研究所に対応する機関として位置付くこととなりました。そして、相談活動とともに調査活動をおこなうことによる、実証的で構成的な研究を進めていくことができるようになったのです。「構成的」とは実践課題に創造的な貢献をするタイプの研究のことです。

2007年度の研究員の研究課題としては、軽度発達障害児・学齢期広汎性発達障害・精神障害者・在日外国人などを対象とした支援プログラム開発・地域支援システムの構築に関する研究、「食」の生涯発達の研究、ネットワークの比較研究、エンパワメント評価研究、生体肝移植ドナーの心理的变化の研究、心理療法家のidentity形成の研究、心理学科生のキャリア支援研究、看護師へのアサーショントレーニングの効果研究などの実証的・構成的研究プロジェクトが進行中です。コミュニケーションが疎な現代社会にあって、自己の精神的健康を維持し、また周囲の人々を心理的に支援していく人間力とでもいえる総合的力が今後ますます求められているといえましょう。心理学部の教育においては、そのような力を「心理支援力」とよび、「ここを探り、人を支える」人材の育成およびヒューマンサポート実践研究に取り組んでいます。この教育の取り組みを、今秋開講される港区民大学講座において、「ここ

の時代に求められる心理支援力：ヒューマンサポート実践の視座」というテーマで、6名の研究員が話題提供することになっています。

私たちのたゆまぬ研究活動が教育や地域貢献にも資するものでありたいと強く願うものです。



心理学部附属研究所所長
井上 孝代

研究所各部門から

◎調査・研究部門より

心理学部の設立に伴い心理学部附属研究所となった2004年度に、「調査・研究部門」が新たに設置され、これまで主に2つの活動を行ってきています。

その一つは、複数の所員、他学部の教員、学外の研究者、あるいは本学の大学院在學生や修了生などとチームを組んで取り組む研究プロジェクトへの助成です。心理学部の教育理念「ここを探り、人を支える」のもとに基礎系から臨床系にわたる所員の専門領域をつなぎ、様々な人々、例えば、多文化の、乳幼児から高齢者の、そして何らかの障害や生きにくさを抱えている人々への生涯発達支援、生活支援、ネットワークづくりなど、実証的・実践的研究が展開されてきています。それらの成果は国内外の学会や学会誌、心理学部附属研究所紀要にまとめられており、2007年度では

新規・継続を含め、学部とも共同して13の教育・研究に関するプロジェクトが活発に行われています。

もう一つは、白金キャンパス、および横浜キャンパスの図書館が所蔵する心理学関連雑誌・図書の新着情報の所員への提供です。定期的にメールを通して新着情報を届けることで、図書館に赴かなくても必要な最新の文献情報が得られ、所員の日々の教育・研究活動をサポートするシステムとなっています。今後、調査研究部門では、学部の基幹科目である「心理支援論」を中核として学部教育と大学院教育をつなぎ、さらに、心理学部附属研究所と地域をつなぎ、協働していく活動を考えていきたいと思っています。

調査・研究部門主任
藤崎 真知代

◎相談・研究部門より

相談・研究部門（心理臨床センター）は、大学の実習教育機関としてだけでなく、地域の方々への相談サービスを行っており、さまざまな心の悩みや心理的な問題でお困りの方の相談に応じています。

夫婦の問題、近隣とのトラブル、子どもの不登校や引きこもり、職場でのトラブルなど、相談はさまざまです。そうした悩みに対応するために、本学心理学部の教員を中心とした各分野の専門家や相談研修員（大学院生）が相談に乗り、一緒に悩みを整理、解決していきます。ご相談の内容により、当センターでお引き受けできない場合には、適切な専門機関をご紹介します。相談内容につきましてはプライバシーを尊重し、秘密を厳守いたしますので、安心して相談することができます。相談以外に、例年一般向けに公開セミナーを開講しています。こころの相談領域は、時代とともに変化していきます。このセミナーは、常に時代の先端を行くホットな話題を取り上げ、参加者とともに考えていきます。

また、この部門は研究にも力を入れています。こころの支援を中心とした研究プロジェクトの成果は、「心理学部附属研究所紀要」として年度末に発行し、皆さんで問題を共有しています。

相談・研究部門主任
阿部 裕

地域社会の人と人との繋がりの中で

心理学部附属研究所（心理臨床センター）では、開設以来6年間、様々な方の相談に応じた多くの専門家向けのセミナーを開催してきました。おかげさまで多くの専門機関との連携を取らせていただくことが出来るようになり、専門機関から紹介されて訪れる相談者の方も年々増加しております。

一番感謝すべき事は、来談者から当センターを他の方に紹介していただいていることでしょうか。いわゆる口コミというものです。この傾向は特に発達相談・教育相談において多くみられます。子どもの問題に悩む保護者が相談機関を訪れ、その経験から同じように悩む保護者の方に「こんな問題に相談にのってくれるところがあるよ」と紹介してくれています。これはまさに地域社会の人と人との繋がりです。我々が目指す相談サービスの目標の一つがここに表れていると思います。すなわち地域の方々の繋がりの中に活用されるサービスの一つ、困った時、迷った時に、気負わず気軽に訪れてみようと思う相談サービス機関であり続けるということです。

この「人と人をつなげる」試みの一つとして、当センターでは、白金ペアレンツクラブ「ゆりの木」という親の会を2ヶ月に1度開催しております。これは、発達の偏りをもつ子どもの保護者の方々に集まってもらい、子どもを育てる上で抱える様々な悩み、愚痴、情報交換をしてもらおう趣旨の集まりです。

相談という目に見えないサービスとは、高尚である必要はないと思います。戸惑い、迷い、悩む相談者を前にして、純粋に何が出来るのかを一緒に模索し出来る限りのサービスを提供する、そんな単純なものであるべきだと思います。当センターとしてはそんな理念の下、地域の方々が互いに支えあい共生する社会の一員として、当センターに課せられ、求められている役割をしっかりと果たし、さらに人と人の繋がりの中で、人と人をつなげるお手伝いを行っていきたくと考えております。

心理学部附属研究所副手（専任カウンセラー）
田所 撰寿

◎「食の生涯発達」プロジェクト

長年、施設で生活する高齢者の抱える問題を検討する中で、摂食と排泄に苦しむ人々を見てきました。「人生の最後の苦しみは、食べることと出すことなのだなあ」と感慨にふけると同時に、その苦しみを乗り越えるだけの喜びとは何かの答えを探し続けてきました。

私にとって食事は喜びです。しかし、そうでない人々は他にもたくさんいます。個食のわびしさに耐えかねている人々、摂食障害に苦しむ女性たち、日々の食物に事欠くホームレスの人々などです。また、多くの日本人や先進国の人々は、溢れるほどの食物に囲まれていながら、生活習慣病や肥満に苦しむというパラドックスに陥っています。

私が食の生涯発達のプロジェクトを思い至った背景には、「食」という人間にとって根元的な生活活動を通して、人々の不安や恐怖、あるいはまた好奇心や喜びに切り込んでみたいと期待があったからです。

本プロジェクトのテーマは、出生から死までの人の生涯の中のいくつかの断片を「食」という共通項を通して検討するというものです。

2005年度から始まった本プロジェクトも、本年度、3年目の区切りを迎えることになりました。これまでに「食スタイル尺度」の開発、大学生の自伝的記憶と食行動の関係の分析、食スタイルと食事スクリプトの関係の分析、施設高齢者の食満足度の分析等を行い、発表できたことは一定の成果であったと思います。また、本年度中には中高年夫婦を対象にした研究成果も得られる予定です。

しかし、本年度までの研究成果は、大学生以上の成人の研究に留まらざるを得ませんでした。今後は、思春期や子どもの世代にも研究の対象を広げることを念頭において、研究を継続したいと考えています。

明治学院大学心理学部教授
佐藤 眞一

◎『終結』をめぐるいくつかの連想。

2004年心理臨床センター紀要に『精神分析的心理療法の中断に関する研究(1)』という論文を掲載しました。精神分析辞典で『中断』という項目を引いてみると「drop out」という語と「premature termination」という語が並んで出てきます。そもそも心理療法は『終結』を目指して開始されるもので、開始に当たっては臨床心理的評価と面接方針、面接目標を立てて始まるものです。その意味では『中断』は後者つまり『早すぎた終結』といえるでしょう。そのことを考えるに当たって『終結』とはどの段階で、どの状況でなされるのかを明確にしなければなりません。私達心理療法家はクライアントと出会いクライアントの中核的葛藤を読み取りその整理と解決を通してクライアントがよりよい社会適応を回復し人生を楽しめるようになることを願います。しかし正確に統計を取ったわけではありませんが私の今までの臨床経験では約4割のクライアントが『早すぎた終結』という悲しい別れを迎えていると思います。『中断』を迎える力動を考えてみるといくつかのことが見えてきます。例えば治療者の技量の未熟や様々な未解決な逆転移、またクライアントの面接への動機づけの足りなさ、中核的葛藤の洞察への不安、抵抗などがそこには横たわっています。そのようなクライアントとどのようにして治療同盟を結んでいくかが私達心理療法家の大きな課題だと思っています。そのために私達心理療法家は研修と自己分析を重ねなければならないと思っています。現在私は面接を終了したクライアントがその後どのように自己をコントロールして生活しているのかについて臨床家としての関心を持っています。ある境界例人格障害のクライアントは6年にわたる私の面接が終了して15年後次のように私に語りました。「昔は先生に分析してもらっていましたが今は私の中に治療者がいるのです。だから今は先生がいなくても私一人でもやっていけるのです。先生はこれからも居てくださいますね。」

明治学院大学心理学部教授
佐野 直哉

◎第6回カウンセリングセミナーの報告

8月6日～7日にかけて、心理学部附属研究所主催第6回カウンセリングセミナーを開催いたしました。「特別支援教育と学校カウンセリング－学校現場の抱える悩みを考える－」を大きなテーマとし、特別支援教育が本格始動した今年度、実際に特別支援教育を行っている学校現場で起こっている先生方の悩みや葛藤をすくい上げ、その悩みにお答えしようと今回のセミナーを企画いたしました。学校教員、スクールカウンセラー、保護者、学生など多くの方々に参加をいただき、終了後実施したアンケートでは、「講義はどれも興味深く勉強になった」、「これからの学校生活に生かせる情報であった」、などという記述が多く見られ、参加された方々にご好評をいただくことができました。

◎2007年度プロジェクト研究紹介

- 関東地方におけるラテンアメリカ人 こころの支援ネットワークシステムの確立 (代表 阿部裕)
- 「食」の生涯発達とその支援 (代表 佐藤真一)
- リアル・ネットワークとヴァーチャル・ネットワークの比較研究 (代表 辻竜平)
- 軽度発達障害児に対する支援のあり方に関する研究 (代表 下司昌一)
- 精神障害者の地域生活における心理ニーズに関する研究 (代表 杉山恵理子)
- 学齢期広汎性発達障害の集団支援プログラムの開発 (代表 小林潤一郎)
- 発達障害児・者への生涯にわたる地域支援システムの構築 (代表 緒方明子)
- 看護師を対象としたアサーショントレーニングの効果に関する研究 (代表 野末武義)
- 学齢期における環境移行への発達支援と教育支援 (代表 藤崎真知代)
- 生体肝移植後のドナーの心理的変化の推移について (代表 佐野直哉)
- 心理療法家identity形成のプロセスをめぐって：面接による調査 (代表 佐野直哉)
- 臨床実践におけるエンパワーメント評価のコミュニティ心理学的研究 (代表 井上孝代)
- 心理学部ネットワーク (代表 金子健)

第5回 精神分析セミナー	
「精神分析的な心理療法における治療者－クライアント関係の力動」 ◎日時：2007年11月17日(土)～18日(日)	
◎17日(土) 12:30～18:00	13:00～ 「治療者とクライアントが出会うとき」 講師：佐野直哉 (明治学院大学心理学部教授)
	14:45～ 「心理療法の初期段階における転移感情と逆転移感情への着目」 講師：北村晃一 (北村臨床心理相談室)
	16:30～ 「治療関係における転移－逆転移」 講師：小此木加江 (小此木研究所)
◎18日(日) 10:30～17:00	10:30～ 「転移を生きることと考えること」 講師：戸谷祐二 (明治学院大学学生相談室)
	13:00～ 「アンナ・O症例と対比してみたところのあるヒステリー症例の転移及び逆転移とその治療」 講師：豊原利樹 (南青山心理相談室)
	14:45～ 公開スーパービジョン
◎参加費：一般 (10,000円)、学生 (8,000円) ◎お問い合わせ先：心理学部附属研究所(心理臨床センター)	

◎スコラーズクラブ参加者募集

明治学院大学心理学部附属研究所 (心理臨床センター) では、学齢期のアスペルガー症候群のお子さんがもっと元気に心の健やかな状態で生活していけることを願って、集団参加支援プログラム (愛称:スコラーズクラブ) を行っています。プログラムは、小グループ形式で工作等の簡単な作品作りを行うもので、活動の場への所属感を大切にしています。土曜日の午後、週1回×8回 (約3ヶ月間) の頻度で実施します。興味のある方は当センター相談申込電話03-5421-5444までお問い合わせ下さい。

心理学部附属研究所 通信 [2007 秋 創刊号]	
編集・発行	明治学院大学心理学部附属研究所
	所長 井上孝代
	〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37
	TEL: 03-5421-5445
	E-mail: cccsnr@psy.meijigakuin.ac.jp